



創造・感謝・勤労

飛幡中

2018年度

北九州市立飛幡中学校 学校通信

平成30年10月24日 No. 14

発行責任者 校長 池 浩幸

学校所在地 戸畑区小芝一丁目8番20号

TEL 093-882-3652 FAX 882-3618

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

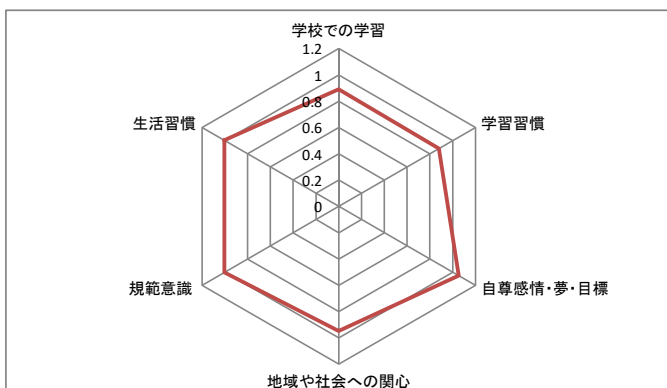
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	○解答をする際に、どのような条件が提示されているのかを正確に捉えられていない生徒が多い。「条件をよく読み解けていない」「書かれた条件をよく理解できない」この両面が考えられる。また、普段の授業から意見を述べる際には、因果関係・根拠の提示・反駁・補足、その他何を述べるべきなのか等を発問の際に明確化し、指導支援をする必要がある。また、国語Aの力の向上には、読解力の向上心を高めるために、授業では常に辞書を携帯させ、「引かせる指導」から「自ら引く姿勢」へとつなげていけるように、指導の工夫を行っていく。	下回っている
国語B	○会話や話し合いを場面とした問題から見えてくるものは、人の意見を聞き、その人の意図を正確に捉えたと上で自分の意見を述べる力に課題があるということである。これも、話し合いの場面の様子等、総合的に判断しなければならないが、建設的に話し合いを構築していく力に課題があると考えられる。例えば、司会者の会議の進め方を観察すると、マニュアルから外れた議事進行の修正や質疑の不整合などに対する適切な対応がうまくできない場面が見受けられる。今後、一斉の小グループでの話し合い活動だけでなく、一グループでの話し合いを観察する活動も必要であるとする。さらに、論理性を高めるために質の高い文章にも数多く触れて、実際に書いて読み取りする機会を増やすことが重要だと考える。現在、新聞コラムの視写を積極的に取り入れるようにしている。	上回っている
数学A	○全国平均正答率をやや下回っているが、「指数を含む四則計算」、「単項式どうしの乗除の計算」などの基本的な計算は比較的出来ている。また、「資料の活用」や「確率」の単元も全国平均を上回っている。ただ、「数の大小関係を不等式で表す」や「等式の変形や方程式」など、数量の関係を等式や不等式に表したり、その性質を利用して問題を解いたりすることに課題がある。すべての単元において数式や図形の本質を理解し考察する力に課題が見られるので、授業の中でもっと考えを深める活動を増やしていく。	下回っている
数学B	○全国平均正答率をやや下回っているが、問題の意図を理解し、グラフなどから必要な情報を読み取り、処理する能力は付いている。しかし、「問題解決の方法を数学的に説明する」や「判断の理由を説明することができる」など、頭の中にある考えを順序良く的確に文章化したり説明する能力に課題が見られる。また、授業の中でも考えたことを発表することはできるが、文章に書くことができている生徒が見受けられる。今後、積極的に説明する問題や考えを文章化する問題に取り組んでいく。	下回っている
理科	○正答率は全国や全市と同程度ではあるが、理科への興味・関心がやや低い傾向が見られる。 ○実験観察の技能は上回っているものの科学的な思考や表現能力に課題が見られるため、正答に結びついていないのではないだろうか。 ○正答率の平均は同程度であるが、度数分布を分析すると、正答数の少ない生徒の数が多傾向にあるため平均が伸びていない。これは理科への興味・関心と呼応していると思われる。	同程度

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

○昨年度の課題であった「自尊感情・夢・目標」のすべての項目において全国平均を上回ることができた。今後も「新版いのち」、「私たちの道徳」等を活用して、特に「希望と勇氣、克服と強い意志」「向上心、個性の伸長」「勤労」を中心に道徳授業の改善、意識の向上を図る。  
○進路学習を通じて、自己の将来の夢や目標を立てさせ、自己の進路（高校進学）に活かす。  
○家庭学習の取組が全国平均に比べ不足しているが、昨年度よりは向上している。学力向上委員会や教科部会で、宿題の在り方や、家庭学習の推進に向けた取組などをさらに実践していく。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 指導主事要請授業やモデル授業を実施し、校内研修を通じて、組織的な授業改善を行っていく。
- 職員室前に学習用テーブルを配置し、放課後や昼休みを中心に生徒が質問や学習ができる環境をつくる。
- 各学年の実態に応じて、朝自習コンクール等を実施することで関心・意欲を高め、基礎学力の定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校通信、学級通信などをさらに充実させ、学校生活の様子を具体的に紹介することによって、子供と親が家庭で共に過ごし、話題を共有することができるようにする。また、積極的に学校ホームページを活用し、「家庭学習チャレンジハンドブック」や各学年の取組等を紹介し、保護者への学力向上に向けた啓発活動を行う。